第1回「大事なのは日頃のご近所づきあい」

西巣鴨新田町会前会長　田崎不二夫さん

鴨台盆踊りを盛り上げていくヒントを聞いてみました！

大正大学と大正大学の学生が、地域の方と連携して活動をするために必要なことは何かを探る連載「**おうだい3meets**」。第1回は、大正大学の近隣にある西巣鴨新田町会の会長を務めていた田崎不二夫さんに、大正大生の印象や西巣鴨小学校の盆踊りと鴨台盆踊りの違いなど、話を聞きました。

お話しいただいた人

田崎不二夫さん

西巣鴨新田町会前会長地域で盆踊りが開催されて以降ずっと運営に関わっている。昨年会長を引退し、相談役として現在も地域で活動を行っている。

塩入法道先生

仏教学部仏教学科教授。第1回の盆踊り（みたま祭り）から現在まで総合プロデューサーとして関わっている。

インタビュアー

石橋郁乃

心理社会学部臨床心理学科4年。鴨台盆踊りの運営に携わるのは今年で4回目。趣味は音楽鑑賞。

1.　準備から撤去までが盆踊り

本日インタビュアーを務めさせていただく、石橋と申します。最初に、田崎さんの普段されている仕事内容を教えてください。

よろしくお願いします。仕事内容ですが、昔は今みたいに夜の町は明るくないですから、商店街などに街灯を立てたりしました。また、秋川渓谷や東京の西の方の渓谷へ町の子どもたちを連れて行って水遊びや自然の中での体験の引率なども行います。

町会の行事として、盆踊りが開催されたのはいつ頃からですか？

町会の行事として最初は開催していないんです。昭和40年代は、町にお店や職人さんがたくさんいたんですよ。そういう人たちが集まって商工会ができて、その中でも若手が多かったから「楽しいことたくさんやろう」ということで盆踊りが始まった。町会はお手伝い、共催という形で一緒になって盆踊りを始めたのがきっかけです。

この時から、盆踊りの会場は西巣鴨小学校だったのですか？

小学校の近くに空き地があって、そこを利用して開催していたんですよね。

そうですね。マンションが建ってから小学校の校庭をお借りしての開催に変更になったのかな。そういうのもあって、しばらく盆踊りをやるのは中断していましたが、「そろそろ盆踊りやろう」という気運が盛り上がってきて、倉庫にしまっていた機材を引っ張り出して点検をしたんです。その頃私は町会に入ったばかりで、総点検と言ってもどんな機材を使ってやるのか、全く経験がなくて何を点検して良いかわからない。電線や櫓の材木を引っ張り出したりして、先輩たちに手伝ってもらった思い出があります。

一時中断していたのですね！盆踊りの準備はやはり忙しいですよね。

組み立てから撤去を入れて３日間。それはもう忙しいですよ。朝倉庫から機材を取り出して昼過ぎに組みあげるんだけど、その夕方から盆踊り1日目が始まるからかなり大変でした。最近は若手が減って人で不足だし、体力が必要だから今じゃできないですよ。

インタビューの様子

2．世代間交流が開催の目的

鴨台盆踊りが開催されるより前から、盆踊りの運営をされていたとのことですが、その中でどのような課題が挙がるのですか？

毎年挙がるのは集客を含め広報ですね。というのも、子どもたちが親の実家に帰るとかで分散してしまうから、すぐ開催しないと人が集まらない。西巣鴨小学校での開催日は小学校の夏休み入ってすぐの土日と決めているんです。

鴨台盆踊りの開催時期は、世間の盆踊りの開催日より少し早いから広報が難しい、という課題がありますね。

私たちは回覧とポスターでのお知らせがほとんどで、知り合いには手書きの案内状を差し上げたりしています。

毎年田崎さんから案内状をいただいて、実行委員の学生たちと一緒に参加させてもらったこともあるんですよ。

毎年どれぐらい地域の方が来場されるのですか？

2日間で約1800人の方が来場しています。私が盆踊り運営に携わってから今まで、12回開催しているんですよ。2011年の東日本大震災の年は、お祭り騒ぎは全部自粛という空気だった。でも盆踊りは慰霊の気持ちがあってこそ。この時開催しないでどうすると、あの年もやりました。その間、中止したのはコロナ禍の影響があった去年の一回だけですね。

コロナ禍の影響で中止となったということですが、全国で地域の関わりが薄くなってきているという問題がある中で、対策されていることはありますか？

昨年の5月に会長を引退したので、あまり具体的な話はできないけど、コロナを理由に手放すという暗黙の了解が成り立ってきているのは勿体ないと思います。ちゃんとリスクを考えて、対策を取ったうえでやれることはやろうというのが私の趣旨でした

確かに、大正大学の盆踊りもこの状況だから「開催しない」と言えば楽だけど、そういうのとは別の話ですよね。

そうですね、色々知恵を絞ることは大切。ボケ防止もありますが（笑）。そもそも私たちが開催する目的は、地域を賑やかにして活性化することがあります。それから、地域の人同士のなんとなくみんな顔見知りという関係性や、世代間の交流も。子どもたちと、お年寄りが交流する機会は少ないけど、若い子がおばちゃんに踊り方を教えてもらって一緒に踊る風景は、何度見ても良いなと思う

私たちにとっても、踊りを教えていただいて一緒に踊るという時間はかけがえのないものだと思っています

以前、踊りは地域のお師匠さんが教えてくれていたんです。ですが、お師匠さんが病気になられて何年かは町内のお弟子さんたちが指導しながらやってくれていました。そんな中、地蔵通りで踊りの指導をしている、坂東先生が大正大学も指導してくださっているという話を聞きました。それなら、坂東先生にお願いしたいという話をしに行った快く引き受けてくださったんです。

西巣鴨小学校の盆踊りの様子（2019年）

3．もっと学生を巻き込んで！

西巣鴨小学校の盆踊りについてお聞きしてきましが、鴨台盆踊りの印象を教えてください。

板東先生が献身的に、アップテンポの曲をやったりしてうらやましい。私たちのところは定番の曲をやっている。あんなの踊れないとなんてお年寄りの方には怒られちゃう。東京音頭と炭坑節はやはり盆踊りの定番。これを若い子向けに踊りをアレンジしていくのは良いと思うけど。定番は確実に盛り上がりますよね。

私たちも、定番を大事にしていきたいと思います
先ほど塩入先生もおっしゃっていましたが、地域の方に鴨台盆踊りをもっと知ってもらうために広報に関してアドバイスいただけますでしょうか。

もっと大々的にポスターを貼るとか、1週間前から学生が浴衣着て巣鴨商店街を歩くとか積極的にアピールしても良いと思う。菊かおる園のお年寄りを招待して車椅子でも参加してもらうのもどうでしょうか。誘ったら泣いて喜ぶと思うよ。車椅子座っているおばあちゃんが、東京音頭聞いたら「私これ知っている」って立ち上がって踊ろうとする

一緒に踊ろうとしてくれるのは嬉しいですね。

福祉学科の学生が案内したりするのも良いですよね。

広報に通ずるところで言えば、少し大正大学の盆取りに違和感があります。というのも「盆踊りやろう！」という実行委員の学生と一般の学生が乖離してる部分があるのではと感じてしまって。

一部の学生は面白そうなことしてると乗ってきてくれるけど、この学内広報はいつもテーマにあがりますね。呼びかけが足りないわけじゃないんだけどね。

強制的にこの日と、この日は浴衣きてくること！ って。
皆浴衣きて、授業参加したら教室華やかになって講義やりがい有るでしょう？

そのぐらい派手に告知しても良いですよね。以外と浴衣着て踊ってみると楽しいので。ちなみに、田崎さんは大正大学生にどんな印象をもっていますか。

私の住んでいる場所は少し遠いから、学生さんと直接普段から関わりがあるわけではないけど、おとなしいという印象です。公園が近くにあるんだから、吹奏楽部がフラッシュモブ的に突然 1、2曲演奏して、「どこの誰だ！」みたいな。大学が怒られない程度に暴れて帰ってくるというのも手だけどね（笑）。

学生がゲリラ的に何かできる環境があれば良いんですけどね。

苦情にしても、それを「しょうがねえな」と思ってもらえる大学じゃないとダメ。そのためには、日頃のご近所つきあいはとても大切なことだし必要ですね。

最後に、私たち大正大学生がこれからも地域に入って活動するために必要なことを教えていただけますでしょうか。

例えば、町会が開催している盆踊りなどに学生が参加して一緒に活動する可能性は十分にある。塩入先生を通して学生を4、5人呼んでいただければ、交流の場所は作れます。

それこそサービスラーニングですよね。こういった活動は地域にニーズがあるということですか？

地域で活動すること自体にメリットを見出すのは少し違うかもしれません。悪く言えばボランティアだけで終わってしまう可能性もある。だけど、目に見えない街の人とのつながりや、お年寄りとの関わり方が分かるというのは就活の時に強いんじゃないかなと思いますよ。

町会長として長年巣鴨地域を見てきた田崎さんだからこそ、地域の方や伝統を大切にしたいという想いの強い方という印象を受けたインタビューでした。

何かを続けるためには、今まで積み上げてきたことを大切に引き継ぐことはもちろん、新しいことを取り入れていくことの柔軟さも必要なのだと思います。
鴨台盆踊りは昨年のオンライン開催を経て、今まさに新しいことに取り組んでいるところ。ここで地域の方との関わりを途絶えさせないように、田崎さんが仰っていた「日頃の近所付き合い」も心がけていきたいです。

記事　心理社会学部 臨床心理学科４年　石橋郁乃
お話を聞いた日　2021年６月４日